



教育に新聞を

2018年度 大分県NIE 実践報告書

大分県NIE推進協議会

ご挨拶

大分県N I E推進協議会
会長 堀 泰 樹
(大分大学教育学部教授)



「2018年度大分県N I E実践報告書」をここにお届けします。

この報告書は、大分県内のN I E実践指定校 8 校のN I E実践をまとめたものです。校種別には、小学校 3 校、中学校 2 校、高等学校 3 校となります。全国大会枠がなくなったことで、昨年度と比べますと、中学校が 5 校減りました。

報告には、実践指定校でのN I E実践がいずれも具体的にまとめられています。小学校・中学校では、N I Eタイムや新聞掲示の工夫、新聞を活用した学ぶ喜びや楽しさを実感する授業づくりの取り組みなどがまとめられています。高等学校では、職業観を育てる試み、進路目標設定に新聞を活用する試み、社会への興味・関心を喚起する試み等がまとめられています。いずれも、これまでの大分県N I E実践の積み重ねを引き継ぐものとなっており、「継続は力なり」という思いを強くします。あらためて、実践指定校の皆様の取り組みに敬意を表する次第です。この報告書を目にされる先生方には、これからの授業実践の構想に際して、新聞を学習材として位置付けた授業づくりの参考にしていただければ幸いです。

大分県N I Eの特色は、全国大会のスローガンにもある「楽しくなければN I Eじゃない」という言葉に込められています。この実現に向けて、新聞活用を教育課程に位置付け、教師も子どもも楽しくN I Eの学習を進めていき、子どもたちが社会に興味・関心を持ち、自分事として新聞記事の内容を読み・考え、社会とのつながりを気づき・深めていく学習者としての成長を願い、大分県N I E実践研究会を中心に活動を展開してきました。このような取り組みの一端が年次ごとにまとめられることは、N I Eの周知活動に大いに貢献するものと思います。

昨今は子どもへの虐待やネグレクト等の痛ましい事件が問題となっています。N I Eの活動に、親子で新聞を読んで話し合う「ファミリーフォーカス」がありますが、親と子の絆をしなやかで、明るいものにするために、親子で新聞を読み合う活動をどのように取り入れるか、本腰を入れて取り組む時期に来ているように思う次第です。

本年度も大分県教育委員会・大分市教育委員会にはN I E活動にご理解とご協力をいただきました。また、セミナー等へのご支援・ご助力をいただきました中津市教育委員会、中津市立山口小学校の関係者のみなさま、研究発表していただいた大分市立鶴崎小学校、大分市立寒田小学校、竹田市立緑ヶ丘中学校、さらに「大分県N I E実践研究会」に講師として支えてくださいましたみなさまに心から感謝とお礼を申し上げます。

今後の大分県N I E実践が一層盛んになることを祈念しまして、ご挨拶といたします。

目 次

《会長挨拶》	大分県N I E推進協議会長 堀 泰樹……………	1
《2018年度大分県N I E実践指定校と活動》……………		3
《実践報告》		
自ら学ぶ力をはぐくむ授業づくり ～N I Eの良さを日常の授業に取り入れて～	中津市立山口小学校 教諭 中嶋 瑞貴……………	4
全校で取り組む楽しいN I E	大分市立鶴崎小学校 教諭 本松 健一……………	8
いつでも身近なN I Eを目指して ～いつでもそばに新聞を～	大分市立寒田小学校 教諭 曾根崎 豪……………	12
「公の場で通用する人の育成」をめざして	中津市立豊陽中学校 教諭 岸原 美保子……………	16
継続的な新聞活用による確かな学力の定着 ～「DO緑（どりよく）タイム」を核にして～	竹田市立緑ヶ丘中学校 教諭 佐藤 美登里……………	20
4年目のN I E活動の実践と課題 ～生徒のためになる取り組みを求めて～	大分県立別府翔青高等学校 主幹教諭 足立 史歩……………	24
ことばと向きあう、社会と向き合う ～職業観を育てるN I Eの実践～	別府溝部学園高等学校 教諭 田中 祐輔……………	28
新聞を通して考える 社会と自分 ～新聞を進路目標設定に生かす方法を探る・1年目～	大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 小坂 吏香……………	32
《大分県N I E実践研究会》……………		36
《2018 大分県N I Eセミナー》（中津市立山口小学校）……………		37
《大分県N I E推進協議会会則》……………		38
《2018 年度大分県N I E推進協議会役員等》……………		40

2018 年度大分県N I E 実践指定校

校種	学校	学校長	実践代表者	指定年度
小学校	中津市立山口小学校	中尾 一敏	小洞 純子	2016
	大分市立鶴崎小学校	佐藤 由美子	本松 健一	2014
	大分市立寒田小学校	佐々木 和典	曾根崎 豪	2014
中学校	中津市立豊陽中学校	山香 昭	岸原 美保子	2017
	竹田市立緑ヶ丘中学校	河野 義文	佐藤 美登里	2017
高校	大分県立別府翔青高等学校	阿南 典久	足立 史歩	2015
	別府溝部学園高等学校	佐藤 清信	田中 祐輔	2017
	大分県立大分舞鶴高等学校	大久保 和弘	小坂 吏香	2015

2018 年度の活動

4/14	第 66 回N I E 実践研究会	10/13	第 72 回N I E 実践研究会
1 学期 ～夏休み	第 9 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」	10/16	県N I E セミナー (中津市・山口小学校)
5/12	第 67 回N I E 実践研究会	11/10	第 73 回N I E 実践研究会 (N I E 子ども会議)
6/5	県N I E 推進協議会総会	11/12	第 68 回「県学校新聞コンクール」 出品締め切り
6/9	第 68 回N I E 実践研究会	12/8	第 74 回N I E 実践研究会
7/14	第 69 回N I E 実践研究会	12/13	「県学校新聞コンクール」表彰式
7/26・27	N I E 全国大会盛岡大会	1/12	第 75 回N I E 実践研究会
8/18・19	第 70 回N I E 実践研究会 (宮崎市=3 県合同合宿研修)	2/9	第 76 回N I E 実践研究会 (中津市・小幡記念図書館)
8/21	県N I E 懇談会	2/21	県N I E 実践報告会
9/8	第 71 回N I E 実践研究会	3/9	第 77 回N I E 実践研究会

【おことわり】 この報告書に記載されている所属・肩書は、2018 年度当時のものです。

自ら学ぶ力をはぐくむ授業づくり

～N I Eの良さを日常の授業に取り入れて～

中津市立山口小学校 教諭 中嶋 瑞貴

1. はじめに

数年前から、子どもが自ら学ぶ力(問題解決・情報活用能力など)をつけるためのツールの一つとして、新聞を活用している。

1年間のN I Eの実践について報告する。

2. 実践の内容

(1) 授業実践

〈国語〉

- 「春の俳句をつくろう」(6年)
 - ・各新聞記事をヒントに題材を選んだ。
- 「いっしょに読もう！新聞コンクールに応募しよう」(6年)
 - ・友達や先生に新聞記事を読んでもらい、意見を聞かせてもらって、それを踏まえて自分の意見をまとめる学習を行った。
- 「視写」(特別支援学級)
 - ・小学生新聞の見出し文を視写したり、自分が選んだ興味のある記事の中から友達向けの数字や語句を引用したクイズ作りをしたりした。
- 「新聞を読もう」(5年)
 - ・記事の構成(見出し・リード文・本文など)を学習し、自分の興味のある記事を読んで、考えたことを200字程度で書く活動を行った。

- 「漢字辞典の使い方」(4年)
 - ・新聞記事から同じ画数の漢字を探す活動を行った。
- 「今週のニュース」(2年)
 - ・「友達に伝えたいことをニュースの文にする」学習で、天草が世界遺産登録に勧告された記事を用い、ゴールデンウィーク中に担任が天草を訪れた話をして、単元の導入に用いた。
- 「同じ部首を持つ漢字」(2年)
 - ・新聞の中から、同じ部首を持つものを探す活動を行った。

〈社会〉

- 「スーパーマーケットのひみつ」
「牛乳工場のひみつ」(3年)
 - ・社会見学に行ったスーパーマーケット・牛乳工場で分かったことを新聞にまとめた。見出しを一人一人工夫して書いたり、絵を描いたりして、分かりやすくまとめることができた。
- 「地図帳の見方」(4年)
 - ・新聞に記載されている県・市名を地図帳から探す活動を行った。
 - ・オリンピックの記事からそれぞれの国を地図帳から探す活動を行った。

<算数>

- 「重さ・水のかさ」(6年支援学級)
 - ・折り込みチラシで「〇〇g」の食品を探し、読む活動を行った。また、「mL」や「L」の製品を探して読む活動も行った。
- 「大きな数(1000まで)」
(特別支援学級)
 - ・チラシの中から金額集めや、大きな数を値段で読む練習、金額に合った金種をそろえたりした。
- 「大きな数(10000まで)」
「金銭 重さ・長さ」(特別支援学級)
 - ・チラシや新聞を使って数の学習や、単位を見つけ、金種をそろえた。
- 「面積」(4年)
 - ・ 1 m^2 の大きさを新聞で作る活動を行った。また、 1 m^2 の新聞の上に何人立るか調べた。
- 「1億までの数」(3年)
 - ・導入で、新聞や広告の中から大きな数を探す活動を行った。班で協力して探すことにより、活動を楽しめ、数に興味を持つことができた。
- 「長さ」(2年)
 - ・写真に掲載されている「一番大きい写真」と「一番小さい写真」を見つけさせ、それぞれの縦と横の長さを、物差しで測る活動を行った。
- 「1000までの数」(2年)
 - ・新聞に載っている1000までの数を探し、写したり、読んだりする活動を行った。

- 「足し算と引き算2」(2年)
 - ・新聞(広告)に載っている金額を表す数字を使って合計金額を求める活動を行った。
- 「100までの数」(1年)
 - ・新聞の中の100までの数見つけをする活動を行った。

<図工>

- 「劇の小道具作りをしよう」(6年)
 - ・小道具を作る時に、自分たちで新聞を準備し、細巻きにして、柵を作った。
- 「かざりを作ろう」(1年)
 - ・新聞紙を使って飾りやおもちゃ作りを行った。



(2) 授業以外での実践

<NIEタイム>

(6年) 週に1回、朝読書の時間に新聞を読み、気になる記事を切り抜く。



- ・選んだ記事を朝の会のNIEスピーチで、日直が紹介し、記事に関連するクイズを出す。



(NIEスピーチで準備した資料は掲示)

(5年) 時事ニュースが書かれた記事(『ワールドカップ 日本VS ポーランド戦の戦術』など)を紹介し、それについてどう思うか、ペアやグループで交流し、数名が発表した。

(1～4年) 毎週金曜日朝読書の時間に、NIEワークシート(わくわく新聞)に取り組む。

*ワークシートは、学校司書が作成



<週末課題>

○3～6年生で毎週実施。

- ・読売ワークシートを活用
- ・朝日小学生新聞天声こども語の書き写し
- ・記事より意見文、感想文、要約や設問による抜き出しなど。

*週末課題は、担当が作成

<図書委員会>

○NIEおみくじ

- ・その日のテーマに沿った記事を見つけたら、おみくじが引けて、景品をもらえる。記事を見つけるために、新聞をめくる中で、他の記事にも目を留める子が増えた。

<学校司書の取り組み>

- 休み時間に子どもたちと新聞エコバッグを作成した。
- 廊下や階段踊り場に児童の興味を引くような新聞記事を掲示。
- 昨年度に引き続き、スクラップブックを作成。
- 届いている新聞の件名の中で、レファレンスがありそうな件名の一覧表を作成し、P Cのサーバーに定期的に保存し、教師が確認できるようにした。また、特に気になる件名には付箋を貼って配架した。

(3) N I Eセミナーでの授業公開

10月16日に6・4・3年生で授業公開

○国語(6年)

- ・集めた知識・情報と自らの考え、意見を関係づけ、根拠を持った主張を組み立てる教材として討論会を行った。「75歳以上の高齢者の運転免許返納」について、肯定と否定それぞれに割り当てられた立場で主張を考えた。主張の根拠となる材料を新聞・インターネットなどから幅広く集め、グループごとに整理した。



○道徳(4年)

- ・命の尊さ、与えられた命を一生懸命生きる素晴らしさを伝える教材として新聞記事を活用した。



○国語(3年)

- ・資料を読み取り、発表をする学習で、新聞の「小学生が将来就きたい職業のランキング」を活用した。児童に親しみやすいニュースで、学習の興味や関心を高めた。



3. おわりに

社会に主体的に関われる子どもを育てたいと学校全体で新聞活用に取り組んでいる。本年度は、N I Eセミナーを本校で開催したこともあり、教職員の意識も高まった。子どもたちも、新聞があるのが当たり前で、新聞に目を通す子も増えてきている。また、本校は新聞に掲載してもらうことが多く、自分が載った新聞を見ることで、子どもたちの自信や意欲につながっている。

今後は、こちらから与えるだけでなく、子どもたちが自ら課題を解決したり、情報を得たりするためのツールとして新聞を活用していけるよう実践を続けていきたい。

全校で取り組む楽しいN I E

大分市立鶴崎小学校 教諭 本松 健一

1. はじめに

この4年間、全国大会枠の実践指定校として新聞活用の実践に取り組んできた。N I Eの研究テーマを「全校で取り組む楽しいN I E」と設定し、「新聞を身近に感じ、私たちが暮らしている世の中に関心を持ち、主体的に考え、行動できる子ども」を育てることを目指して、発達段階に合わせた全教科・領域での日常的な新聞活用の実践を重ねてきた。

本年度もこれまでの積み重ねを生かしながら、全国大会後も継続できる日常的な取り組みのあり方を模索していくことにした。毎年異動で職員の入れ替わりがあり、特に近年はその人数が多い傾向にある中で、どう取り組みをつなげていくかが大きな課題である。その中で教職員も子どもも、楽しく新聞活用する雰囲気を作り学校全体に広げていけるようにしていこうと、全職員で実践に取り組んでいった。

2. 本年度の実践について

(1) 継続的な取り組み

①新聞の掲示

・「新聞閲覧コーナー」と「今日の新聞の1面」の整備

→全校の児童が必ず通る昇降口近くの階段に設置することで、必ず目につき、手に触れやすくしている。



・N I Eコーナーの充実（新聞記事の紹介、児童が作った新聞の掲示など）



→図書室につながる渡り廊下で、新聞記事の紹介や前日までの新聞を自由に見られるようにしている。

②朝のN I Eタイム（毎週金曜日朝学習）

低学年：新聞紙に親しむ活動、N I Eワークシート



中学年：新聞切り抜き、N I Eワークシート
高学年：新聞スクラップ、N I Eワークシート、コラム視写



※大分合同新聞販売店のご協力による新聞提供

→毎週必ず子どもたちが新聞と接する最も大切な時間である。

③各学年でのNIE授業の実践

・校内研究にて、新聞を活用した授業の実践研究

1年国語：「くらべて読もう～じどう車くらべ」
→はたらく車しんぶんを作る。

3年国語：「食べ物へんしん新聞」で、「食べ物
のひみつ」を全校のみんなに紹介しよう

4年国語：「説明のしかたについて考えよう～ア
ップとルーズで伝える」…実際に新聞からア
ップとルーズの写真を探し、その使い分けの意義
について考えさせる。

・各学年での新聞づくりの取り組み

1年：図工「新聞紙で動物作り」「やぶいたかみ
からうまれたよ」、生活「落ち葉でデザインした
新聞紙の服作り」など



2年：生活科「さつまいも新聞」「新聞紙でさつ
まいも作り」など



3年：社会「校区たんけん新聞」「社会見学新聞」、
図工「新聞紙ランタン作り」など



4年：社会「見学遠足新聞」、総合「鶴崎おどり
&水辺の楽校ハガキ新聞」など



※4年生の
見学遠足新
聞が、県学
校新聞コン
クールにて
優秀賞を受
賞。

5年：総合「お米作り新聞」、特活「運動会新聞」、
大分合同新聞社印刷センター見学など

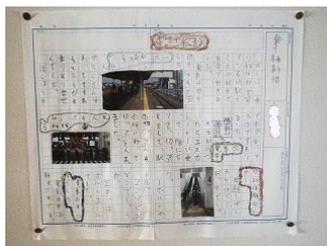


6年：総合「修学旅行新聞」など



特別支援教育：「乗り物たいけん新聞」など

→どの学年でも授業で新聞を扱うことや新聞形式で書くことに抵抗感がほとんどない状態になっていると感じる。



④切り抜き新聞グランプリの実施

・校内切り抜き新聞グランプリの実施

全校で6～8月に実施し、職員で審査し10月の全校朝会にて表彰を行った。

・大分合同新聞社主催「おおいた切り抜き新聞グランプリ」に全校で応募（12～1月に全校児童で切り抜き新聞作りに取り組む。審査の結果、4名が入賞、学校賞を受賞した。）

→子どもたちも楽しく取り組むし、コツをつかみ上手になる。

また学年が上がるにつれ、内容がどんどん充実していくことが分かる。



⑤情報発信の取り組み

・「NIE子ども会議」への参加

→NIEの活動の中でキラリと光る取り組みをした児童にとって活躍の場となり、その子の自信につなげることができている。



⑥その他、各先生方の自主的実践

- ・教室掲示での新聞活用
- ・背面黒板や廊下の掲示

・運動会スローガン

・クラブ活動新聞

→先生たちが自由楽しく取り組む雰囲気につながっている。



(2) 本年度、新たに行った取り組み

①飛び出せ学校（5年）～鶴崎の祭りや歴史を紹介しよう

→現在、取り組み継続中。来年度、掲載予定。

②ファミリーPTAで、全校児童・保護者に向けた防災教室での新聞スリッパ作り

→「新聞の学校」として保護者への大きなアピールとなった

し、新聞で防災スリッパを作ることで防災意識を高めることもできた。



(3) 自分が行った実践

①5年生「大分川ダムについて知ろう」～見学の事前学習として、新聞記事から大分川ダムについて知り、興味を持たせる。

→新聞記事から分かったことを一緒に読み取ることができた。

3. まとめ

(1) 児童へのアンケートの実施とその結果について

1月下旬、児童にNIEに関するアンケートを行った。【学校での取り組みについて】は全学年、【新聞を活用した取り組みを通して】は4～6年の児童を対象に行った。次ページの表がその結果である。

【学校での取り組みについて】

- ① 「N I Eコーナー」や「新聞閲覧コーナー」、
「今日の新聞の1面」で新聞や掲示物などを
読んだことがありますか。(単位は%)

年度	よくある	たまにある	あまりない	ない
2018	25	43	15	17

- ② 朝のN I Eプリントの取り組みは楽しいで
すか。

年度	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
2018	39	44	12	5

- ③ 授業での新聞を使った活動や新聞作りは楽
しいですか。

年度	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
2018	53	35	8	4

【新聞を活用した取り組みを通して】

- ① 新聞を身近に感じるようになりましたか。

年度	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
2018	24	58	14	4

- ② 世の中のことに関心を持つようになりましたか。

年度	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
2018	29	52	17	2

- ③ 自分の考えを持ち、表現するようになりましたか。

年度	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
2018	22	51	20	7

(2) アンケート結果からの考察

新聞に関する掲示物が学校中に当たり前のよう
に掲示され、例年以上にそれらを見る子ども
たちの姿を多く見るようになってきた。N I E
タイムも定着し、多くの子どもたちが楽しく取
り組んでいるのが分かる。また、新聞を活用し
た授業も多くの子どもたちが楽しいと感じるこ
とができている。

また、学校でN I Eの取り組みがあるから新聞
を手に取り、世の中で起きていることを知る
ことができていると感じる子どもが多いことも

分かった。新聞記事を活用した授業や切り抜き
新聞の作成により、子どもたちが新聞を情報を
得る手段の一つとして認識することができてき
ていると感じる。

(3) 成果

年度代わりに職員の入替わりがあるが、年
度初めに校内研修で校長を講師に話を聞き、N
I Eの基本理念を全体で共有し、スタートして
いったことが大きかった。またこれまでの朝の
N I Eタイムが定着しており、昨年度までの流
れのまま、継続的に取り組みができたと思う。
さらに、昨年度までいた先生たちは学級や学年
でのさまざまな活動や授業で、さらに工夫した
取り組みをしている。新しく来られた先生たち
も、昨年度していたことなどを聞いて、まずは
やってみるという形で取り組んでいる。そのよ
うな中で、全校で先生も子どもたちも楽しく新
聞を活用する雰囲気ができている。

子どもたちにとって新聞形式でまとめること
が、一つのフォーマットとしてパターン化して
おり、完成までのイメージを持つことができ、
スラスラ書ける子が増えていると感じる。

先生たちも新聞の情報が学校と世の中をつな
ぎ、主体的・対話的で深い学びにつながるこ
とを、取り組みを通して実感していくことがで
きたと感じる。

(4) 今後の課題

まずはN I Eタイムの継続を全校で協力して
行っていくことである。本年度使用したワーク
シートを引き継ぐとともに、ワークシートの印
刷や届いた新聞の分配など、事前に調整しス
ムーズに金曜日の朝につなげたい。

あとは各クラスで行われている実践の共有化
である。分掌会議や校内研修などで情報を集め、
プリントやデータをまとめて残していき、来年
度へつなげていきたい。

いつでも身近なN I Eを目指して

～いつでもそばに新聞を～

大分市立寒田小学校 教諭 曾根崎 豪

1. はじめに

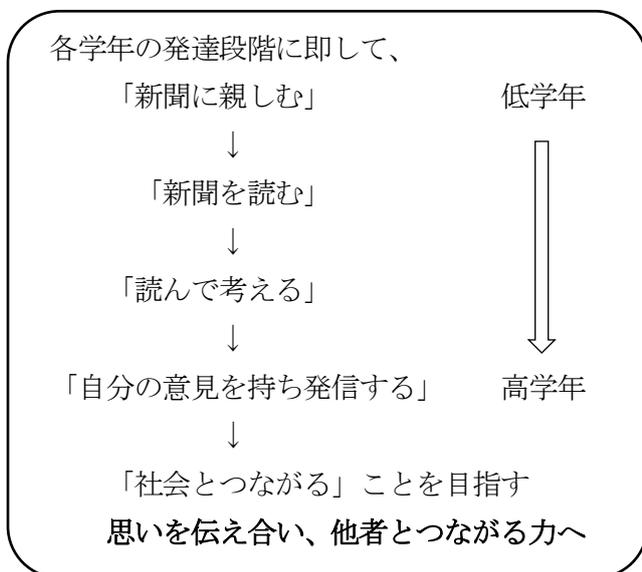
本校では、N I E活動の意義を「言語活動を充実させ、児童のコミュニケーション能力を育成するためのツール」ととらえ、「伝え合い、高め合う」を研究テーマの中に位置づけた本校の教育実践にリンクさせていくことを共通理解し、取り組みの充実を図っている。

高学年・・・記事のスクラップ

コラム視写

ワークシート通信

その他、はがき新聞作り、新聞回し読み、吹き出しバトルの作品作りなど



<教室内の個人ファイルに
掲示したワークシート通信>

2. N I Eタイムの実践

(1) 位置付け

N I Eタイム…第2～5金曜日の朝の活動で取り組みを始めて3年目になり、子どもたちの中にも日常活動の一つとして定着してきている。

(2) 主な内容

低学年・・・新聞遊び

カタカナ・漢字見つけ

中学年・・・辞書引き練習

コラム視写

ワークシート通信

3. 各学年の授業実践など

(1) 教育課程への位置付け

前年度末の教育課程編成時に、N I E年間計画を作成し掲載している。各学年の教科・活動内におけるN I E関連の活動を提示することにより、月ごとの実践に生かしやすいとしている。今後もその年度ごとの実践状況に応じて加筆・修正を加え、取り組みの確認につなげていく。

(2) 各学年の授業実践例

1年生

【国語】「文字さがしをしよう」

・新聞記事の中から習った字を見つけて丸で囲む。

・1学期…平仮名

- ・2学期…片仮名、漢字
- ・時間内にできるだけたくさん探す。
- ・どんな字を見つけたか発表し合う。

【国語】「くじらぐもにのろう」

- ・新聞紙を丸めるなどして立体的にくじらを形どり、その上に子どもたちが描いた自分の絵をのせて掲示した。

2年生

【体育】「かけっこ、リレー遊び」

- ・新聞紙1枚を工夫して丸めてバトンにし、チームで楽しくリレーゲームをする。
- ・グループでどんなバトンにするかを話し合う。

3年生

【社会】「昔の暮らし」

- ・社会見学（歴史資料館）で見たことや体験したことをはがき新聞にまとめる。
- ・お互いの新聞を読み合ったり、発表し合ったりして、学習内容の交流へとつなげた。

4年生

【国語】「アップとルーズで伝える」

- ・説明文の学習を通して、アップとルーズで伝える良さを理解する。一人一人が新聞記事の中からアップとルーズで撮られた写真の切り抜きをし、それぞれの写真が何を伝えているかを文章で表現し、伝え合いをした。



5年生

【社会】「わたしたちの暮らしを支える情報」

- ・新聞紙面の構成や記事の内容について考えたり、新聞が届くまでの様子を調べたりすることを通して、新聞社は情報を選び、正確により早く届けようとしていることを理解する。
- ・新聞にはどんな情報が載っているか調べる。複数紙の1面を比べ、新聞によって伝える内容が違うことを知る。
- ・新聞の作られ方や情報との関わり方についてまとめる。

6年生

【国語】「この絵、わたしはこう見る」

- ・絵（の写真）から読み取ったことや感じたことを表現する。
- ・新聞の紙面から切り抜いて集めた絵の中から好きな絵を選ばせた。横山大観など有名画家、田能村竹田、福田平八郎らの郷土ゆかりの画家など、さまざまなジャンルの絵を用意した。
- ・既習の事項に基づいて、その絵が好きな理由をワークシートに記述したあと、記事の文章を読むことにより、作品や作家の背景なども知り、その絵の良さを紹介文に書きまとめ、交流した。

(3) その他の日常活動など

◇朝の会でのスピーチ（高学年）

興味のある新聞記事について、選んだ理由、要約、感想を1分間で伝える。

◇「GODOジュニア吹き出しバトル」を書く。

◇「いっしょに読もう！新聞コンクール」の作品作りを夏休みの課題として。

◇「おおいだ切り抜き新聞グランプリ」の作品作りを冬休みの課題として。

4. 新聞環境の整備

(1) 図書室での新聞利用環境

新聞と読書をつなげることから、社会への興味を持たせ、読書の質を高めることを狙いとして図書室のNIE環境をつくっている。図書委員会の児童や担当教員、図書支援員の協力で日々の整備が進められている。

【図書館のNIEコーナー】

新聞7紙がテーブル上に置かれ、自由に読むことができるようになっている。壁には、図書に関する新聞記事やポスターなどを掲示している。



【今日のおすすめ記事】

広報・掲示委員会が、届けられた新聞の中から、みんなに読んでもらいたいおすすめの記事を選び、見出しをつけながら紹介している。



【ファイリングブック】

『明日がくる』

～いじめの投稿欄から生まれた漫画～

『朝日中高生新聞』連載中

(本山理咲・著 朝日学生新聞社)

新聞の連載記事を毎回切り抜き、ファイリングをした。図書館内で読めるようにしている。

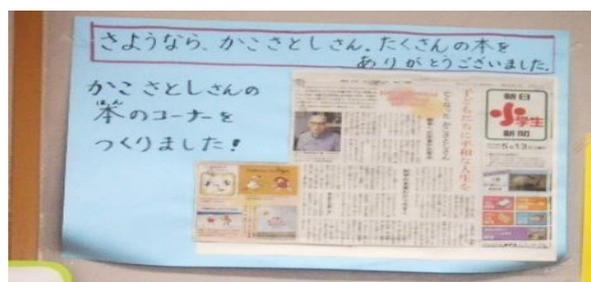
漫画になっているので読みやすい。いじめや友だち関係がテーマとなっているため、身近に感じられるようである。

『明日がくる』(1巻～4巻)とともに、テーブル上に設置していて、毎日、誰もが手に取って読みやすくしている。



【話題の作家と関連の図書コーナー】

新聞記事で取り上げられた作家とその関連の図書を集めたコーナー。壁に記事を貼り、その作家の主な作品などを並べ、手に取れるようにしている。



<「かこさとし」さんコーナー>



<「ちびまるこちゃん」コーナー>



<図書館のかわいそうな本たち>

(2) 掲示板など

各学年の掲示板にN I Eコーナーを設け、新聞紙を使った掲示物や子どもたちが書いた新聞などを掲示している。



<1年生の節分「おにたいじをしよう」>

5. 終わりに

(1) 児童の声から

○新聞を読むと知らない言葉がいっぱい出てきて、新しい言葉を覚えたり、世の中のことを知ったりすることができた。

○新聞でお気に入りのコーナーが出来て、毎回読むのが楽しみになった。

○視写は速く書くのが大変だったけど、目標タイムを決めてやったら慣れてきて、だんだん速く書けるようになった。授業でも黒板をノートに書き写すのが速くなったと思う。

(2) 成果と課題など

来年度のN I E活動の取り組み方について、各学年のN I E担当をはじめ、研修担当や職員で話し合っている。

新聞を身近に感じている子どもたちの姿として、新聞記事の切り抜きを楽しむ子どもたちが増えてきた。図工の材料として新聞紙を使う時にも、書かれてある記事に目を留め、読みふける姿もよく見られる。

また、新聞コラムやワークシート通信の活用により、世の中の出来事に興味を持ち、関心が高まってきているのを感じる。

さらに文章を書く力や読解力なども以前に比べついてきており、このN I Eの取り組みを寒田小学校の自慢の一つだと思っている子どもたちも多い。

N I Eの活動が子どもたちの学力向上や成長につながっているのは間違いなく、今後も成果を高めていきたい。前述のさまざまな取り組みの中で、「家で新聞を取ってないので、持って来れない」という児童の声が聞かれることも少なくない。そのためにも、これまで以上に、新聞に触れたり活用したりする場づくりや環境整備を進めていくことが必要だと感じている。

また、教職員の異動に伴う人員の入れ替わりがある中で、新しく加わる職員との研修も不可欠であり、これからも子どもも教師も楽しめるN I Eを目指していきたいと願っている。

「公の場で通用する人の育成」をめざして

中津市立豊陽中学校 教諭 岸原 美保子

1. はじめに

本校は、「公の場で通用する人の育成」を学校目標に掲げ、重点目標を「自らの人生を切り拓くための『学力保障』」としている。授業において、教科書教材を使用するにとどめず、図書館資料を活用して進めていくことは、さまざまに選択肢が広がり、生徒の思考力・判断力の向上に役立つと考え、図書館活用を推進していく。

本年度はN I E実践指定校2年目となった。昨年度と同様、N I Eを学校目標や重点目標を念頭に授業改善をしていく手立ての一つと位置付けて、実践に取り組んだ。

2. 実践の内容

(1) 各学年の目標

- 1年生・・・新聞に親しみ、興味・関心を持って新聞を読もうとする
- 2年生・・・新聞を読むことで、さまざまな社会現象に出会い、興味・関心を持つ
- 3年生・・・新聞を読み、読解力、思考力を育て、言語活動を充実させる

(2) 新聞を活用した授業・活動

○朝読書・自習の時間を利用したN I Eタイム

1年生

- ・新聞記事のワークシートの取り組み

2年生

- ・新聞記事のワークシートの取り組み



- ・新聞コラムの視写



3年生

- ・新聞記事のワークシートの取り組み

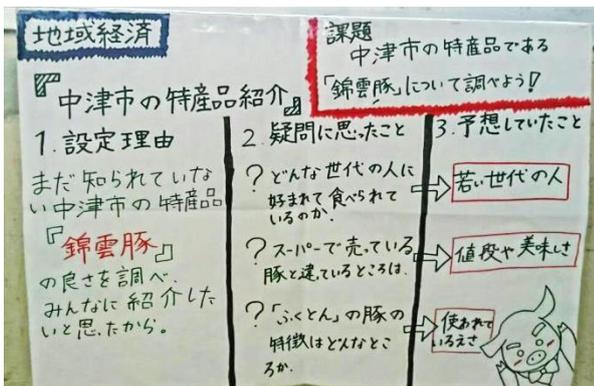
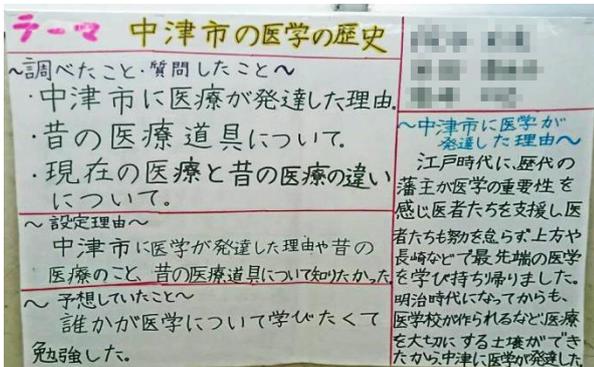
○道徳

- ・生徒の実態に合った記事を探して教材とした。記事を読み、友だちと意見交換することで、考えを広げる活動に取り組んだ。
- ・「出会い」について (1年生)
- ・友だち関係を考える (1年生)
- ・新聞の投書に学ぶ (2年生)

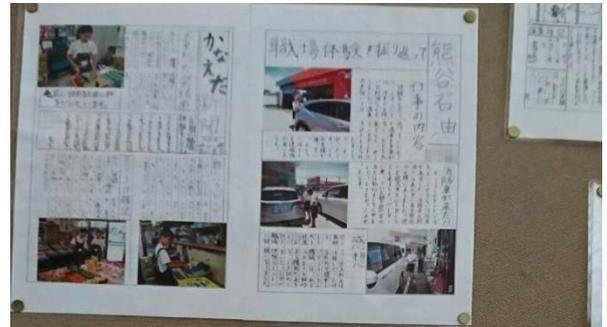
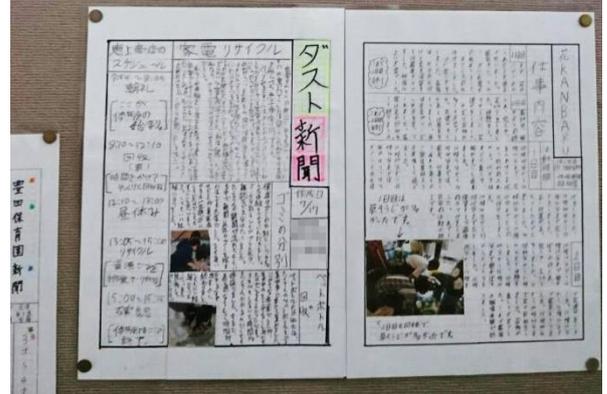
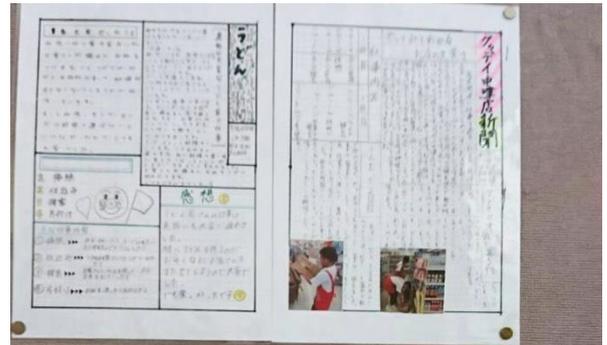


○総合

- ・調べ学習で得た情報を壁新聞にまとめ、発表する活動に取り組んだ。(1年生)



- ・職場体験学習のまとめを事業所ごとに壁新聞にまとめ、掲示し、発表する活動に取り組んだ。(2年生)



○国語

- ・情報単元「情報の集め方を知ろう」
- 「新聞の紙面構成の特徴を知る」

実際に新聞の1面記事を見ながら、紙面構成の学習をした。(特別支援学級)



「幻の魚は生きていた」

発展教材としてクニマスが載った新聞記事を用いた。(1年生)

・「多様な方法で情報を集めよう」という単元で、新聞から情報を集める学習をした。

(2年生)

・「生物が記録する科学」

発展教材として、ペンギンにカメラを取り付けた「バイオロキング」の新聞記事を用いた。(2年生)

・「相手の考えを踏まえて発言する」

教科書教材の発展として、新聞の投書から題材を選んで意見の述べ方を学習した。(2年生)



・天声人語ワークシートや、新聞各社のワークシートなどを用いて、読解問題を解いたり、記事の内容について自分の意見を持ち、友だちと意見交換したりする活動に取り組んだ。

(3年生)

(3) 学校司書との連携

授業者が授業の構想や必要な資料について相談し、学校司書が授業内容に合った的確な資料を収集し、必要枚数準備している。司書の豊富な資料収集が、授業の幅を広げることに役立っている。また、学校司書同士のネットワークが充実しており、必要な記事がない場合は、他校や市立図書館から借りたりもできる。新聞作りに必要な資料も、学校司書が取り寄せることができ、授業者のサポートをしている。

また、図書館内に新聞コーナーを設置し、記事を見つけたらおみくじを引かせたり、記事のスクラップをしたり、新聞記事に親しむ活動を仕組んでいる。

3. 環境整備

NIE担当、学校司書、生徒会図書広報部を中心に、全校生徒が新聞に親しめる環境をつくっている。

(1) 新聞コーナーの設置

①毎日、各学年の廊下の掲示板に、新聞3紙のトップ記事をコピーして掲示している。



②渡り廊下に、閲覧用の新聞を配置し、気軽に閲覧できるようにしている。



③図書館内にも新聞コーナーを設置している。当日を含めて5日分を配置し、振り返って記事を読めるようにしている。

④図書館内では、新聞記事に親しむ活動を仕組んでいる。新聞記事を置いておくだけではなくなかなか読まない生徒がいるので、「中学生見つけ！」(中学生に関する記事の一つ見つけたら1回おみくじを引き、当たりが出たらブックカバーをプレゼントする。※おみくじは1日1回まで)という仕掛けを仕組んだ。



4. 成果と課題

NIEタイムについては、生徒によっては「面倒くさい」「読み取りが難しい」という反応もある。家庭に新聞がない生徒もいる。しかし、取り組みも2年目となり、生徒もだんだん慣れてきている。「日頃自分では読まない記事が読めるのでよい」「世の中のことを知ることができる」「視写すると落ち着く」「家でも新聞を読むようになった」という、プラスの反応を示す生徒も増えてきた。

1年目と同様に、まずは「NIE」という言葉が教職員や生徒に浸透し、新聞を身近に感じることができるよう環境整備から取り組んできた。活動も2年目となって、授業実践についても、新聞を活用する時間が増えてきている。すべての教科で実践を行うことは難しかったが、今後も、学校司書と連携を取りながら、授業やその他の活動に、気軽に新聞を活用してみようという雰囲気を高めていきたいと考えている。

継続的な新聞活用による確かな学力の定着

～「DO緑（どりょく）タイム」を核にして～

竹田市立緑ヶ丘中学校 教諭 佐藤 美登里

1. はじめに

本校では「自主・協働 そして自立」という学校教育目標を掲げ、「確かな学力の向上」と「豊かな心の育成」を重点目標としている。その両面で効果を上げてきた「DO緑タイム」の深化発展も大きな取り組みの一つである。

この春、新たに赴任した教職員にも、NIEの意義やこれまでの実践の紹介をしたり、意見を交わしたりして、「DO緑タイム」を核に、効果的かつ持続的な取り組みを全教職員の意思統一の下、進めている。

私は16年前から朝自習やドリルタイムで、新聞記事を活用したワークシートを毎日自作してきた。そんな私にとって、ありがたいことが年々増えている。まず、「DO緑タイム」の価値を生徒はもちろん、教職員も実感してくれて、国語科の取り組みに留めずに「全教職員で関わろう！」と行動を起こしてくれたことだ。3年前から「DO緑タイム」の監督だけでなく、コメント書きも全教職員であることになった。さらに昨年度から、金曜日だけは学年部持ち回りでワークシートを作成することになった。国語科の1人で記事を選ぶよりも選ぶテーマに広がりが出た。どの先生が作ったかを当てる楽しみも増えた。新聞をあまり読まない教職員も意識して新聞をめくり、それを見かけた生徒と温かい会話が生まれる様子も日常的に見られて、とても嬉しい。こうして本年度も「DO緑タイム」を核に、効果的かつ持続的な取り組みを全教職員の意思統一の下、進めることができた。

2. 実践の内容

(1) 毎日10分間の全校「DO緑タイム」

①目的

- ・短く秀逸な文章である新聞記事を読み、自分の思考を深め、考えを表現することを継続させることによって、読解力や判断力、表現力を身につけさせる。

②方法

- ・平日の午後1時40分からの10分間（昼休みの終わり、5校時の前の時間帯）に設定し、毎日行う。
- ・生徒会学習部の活動内容にも取り入れ、学習部員が昼休みのうちに配布し、回収も担う。
- ・ワークシートは複数の新聞のコラムを取り上げ、手作りする。適宜、コラム以外の新聞記事も利用して作成する。金曜版だけは国語科以外の教職員が輪番で作成するので、使えそうな記事やワークシートのひな型を、職員室内の定位置に設置し、自由に使えるようにしている。
- ・1学期、1年生は「東西南北書き写しノート」を使って、ひたすらタイムトライアルをさせ、ゲーム感覚で楽しく取り組ませた。2学期以降は2・3年生と同じワークシートを使う。
- ・漢字の読みや辞書を使っての意味調べ、3色ボールペンを使った傍線引き、要約、題名つけ、意見文の短作文等、生徒の実態に応じてワークシートをアレンジしながら取り組ませる。
- ・「DO緑タイム」の監督とワークシートの点検や声掛けを学年部所属の全教職員で行う。

③効果

- ・10分間、目的意識を持って、読み書きのために大切な姿勢を維持することに慣れる。
- ・ほぼ毎日行うことで、生徒が自身の成長や取り組みの様子をメタ認知できる。
- ・新聞記事に触れることで視野や知見を拓けることにつながっている。
- ・テストでの記述問題の無解答率が全校で1割を切り、記述に対する苦手意識が小さくなる。
- ・2学期末の生徒アンケートで、読解力の向上や表現力の向上について9割の生徒が肯定的評価をしている。

④先につなげる工夫

- ・生徒の相互評価と国語科の評価を学期に1度行い、モチベーションの向上を図る。
- ・文化祭や研究発表会、視察、PTA等の折に、全員の「DO緑ファイル」を展示する。
- ・学年末、生徒は自分の「DO緑ファイル」から全てを抜き取り、感想を記した表紙を付けて国語科に預ける。国語科で最終点検をした後、職員室前のガラス戸のロッカーに保管する。冊子の厚みで「見える化」することで意欲の向上につながり、卒業時には記念の品となる。
- ・3年生は卒業直前に「『DO緑』のバトン」を写真入りで調べ、新入生の意欲喚起の一助とする。継続しているこの取り組みは新聞でも紹介され、生徒の楽しみにもなっている。
- ・毎学期末に生徒アンケートを取り、実践の振り返りをする。それを踏まえて、次の学期の取り組みを全職員で協議する。

(2) 昨年度3学期以降の実践

①毎日更新「新聞立ち読み場」

地元の方のご厚意により、3年前から毎日、大分合同新聞を生徒用に1部頂いている。生徒玄関のホールに設置し、いつでも誰でも新聞を読めるようにしている。

2学期の間、NIEの実践指定校となったおかげで、6紙が毎日届けられることになり、立ち読みスペースを広げた。生徒はそれぞれ気に入った新聞をめくったり、気になるニュースを各紙で探したりして楽しんでいった。

国語科独自のアンケートによると、本校生徒の家庭での新聞購読率は低くないことがわかった。けれど、よく読んでいるのは祖父母という回答が圧倒的であり、親世代はあまり読んでいない様子がうかがわれた。若い世代ほど家で新聞を読まない傾向があるからこそ、「立ち読み場」を設置して、仲間と面白がって親しませる場を設けることは有意義である。

②「NIE掲示板」

- 「昨日の新聞☆1面読み比べ」
地方紙と全国紙の1面を毎日張り替える。1面トップ記事だけでも全員目を通すように指導した。
- 「今日の『DO緑』」
その日の「DO緑タイム」で取り上げる話題に関連した新聞記事を貼る。さらに詳しく知り、考えを深められるようにした。特に写真を多く取り上げ、通りすがりにも目を止めるようなものを掲示した。立ち止まって1人で読む生徒もいるし、感じたことをつぶやき合ったり、楽しく議論したりする様子も日常的に見られるようになった。
- 「大分合同新聞 高校受験生のページ」
毎週日曜日掲載分を毎回貼る。
- 「地元のニュースコーナー」
竹田市や荻町の人や物、出来事を取り上げた記事を紹介する。
- 「先輩からのエール」
卒業生からの応援メッセージを顔写真入りで紹介する。「国語通信」でも取り上げ、「DO緑タイム」の意義を確認させる。
- 「コメント大公開」
「DO緑タイム」に取り上げた記事の内

容に対して考えたことを大判の付箋紙に書き、全員のものを並べる。

○「特設コーナー」

大きなニュースや総合的な学習の時間の参考記事等を適宜、紹介する。また、平和集会や環境集会等、生徒の調べ学習発表の後、発表を聴いた感想として、取り上げられた記事とそれに対する自分の考えを書き、掲示し、意見交流の場とした。

③防災教育への新聞活用

今年も7月は「竹田水害」、1月は「阪神淡路大震災」、3月は「東日本大震災」に焦点化した取り組みを行った。世代が変わるにつれて、忘れてはならない記憶と教訓がどうしても薄れるのを感じる。これまでも防災教育で新聞記事を活用してきたが、新たな試みを考えて実践した。

7月には校長個人が保管している「竹田水害」当時の新聞の実物を毎年、掲示している。3月には佐藤個人が保管している東日本大震災直後からの新聞記事を玄関ホールに展示している。新聞記者が足を運んで得た情報が時を追って変化していく様子も感じ取ることができる。記者やデスク、整理、校閲の方々の息遣いも感じられる。リアルタイムの情報には、その時空ならではの迫力がある。折しも担当している学年が防災の調べ学習と集会を企画することになっていた。これを好機と捉え、新たなことに挑戦した。

集会のテーマや役割分担は生徒の自主性に任せた。一方で、1995年1月17日から2週間分の新聞記事を取り寄せ、20名いる2年生の1人に1面ずつ担当して熟読させた。そして、問いかけた。「24年前の新聞記事に何が見えますか？何が聞こえますか？五感の全てを使うと…」と。掲示用プリントには記事の要約をさせ、「自分がその時、そこにいたら」と想像させた。「過去のこと」「他人事」では

なく、自分事として考えさせるには効果的であった。過去の、リアルタイムの新聞記事の力を再認識する実践となった。

④国語科の実践例

○大分合同新聞出前授業（全校生徒対象）

今年も新聞の知識や「切り抜き新聞」の作り方を楽しく学ばせていただいた。縦割り班で演習をし、交流もした。仕上げた作品は全て掲示して、個人の作品作りへの動機づけにもした。「切り抜き新聞グランプリ」に出品する前に、荻町で行われる文化の祭典「トマト天国おぎ」で展示したところ、大好評であった。「中学生がこんないいことをしている！」「私、何人もここに行って見なあ、っちゅうたんよ！」「新聞を読む若い人が減っているのが心配だが、こういう素晴らしい活動を中学生のうちにしていたら、いい大人になる。」「来年もぜひ！」などと、実に嬉しいお言葉と笑顔をたくさん頂いた。

○「伝えます！6紙の魅力」（1年）

教科書教材の発展学習として位置付けている。2学期に届けられた新聞6紙の読み比べや魅力を発見し、それをポスターにして発表した。それぞれに良さや工夫がたくさんあることや、読み慣れることで新聞への意識が随分変わることを実感させることができた。

⑤個々の実践例

○新聞のシャワー

教育に携わる者として特に知っておくべき、考えるべきことを取り上げた新聞記事を、校長と教頭がよく紹介してくれる。教職員の中にも新聞を購読していなかったり、ネットニュースで済ませたりする人がいるので、大事な資料提供である。生徒にも教職員にも紙媒体の資料はやはり有効だと考える。

学期に1度の「プチ学級弁論大会」や帰りの学活での「1分間スピーチ」、集会の場でのあいさつなどにも新聞記事を積極的に使うよ

う働めている。生徒会新聞も専門部ごとに工夫してきた。行事のたびに「実行委員会だより」も発行している。英語科でも英字新聞を作る。あらゆる所に新聞が絡んでいるといっても過言ではない学校、それが本校の魅力の一つともなっている。

3. 成果と課題

- ・生徒アンケートでも読解力や表現力についての肯定的な評価がとても高く、学年が上がるにつれてその数が確実に増えている。学力テスト等の得点で見ても国語力は大きく向上している。取り組みの大きな成果だといえる。
- ・本校において全校で、ほぼ毎日取り組む「D O 緑タイム」とその効果は多くの人に知られ、定着してきた。これからも生徒の実態に応じてアレンジも加えながら、全教職員で協働して、NIEを推進していきたい。



4年目のNIE活動の実践と課題

～生徒のためになる取り組みを求めて～

大分県立別府翔青高等学校 主幹教諭 足立 史歩

1. はじめに

大分県立別府翔青高校は、全校生徒915名の別府市最大の高等学校で、普通科、商業科、グローバルコミュニケーション科の3学科からなる単位制高校である。

本校の学校教育目標は、「積極的に社会に参加する、責任と良識ある市民性の育成」である。積極的に社会に参加するには、「社会への興味・関心」が不可欠である。NIEの活動を通して、「社会への興味・関心」を養いたいということから、本校は、開校当初からNIE実践指定校に手を挙げた。本年度で指定校4年目である。

(1) 実践状況

①「朝NIE」の取り組み

2年次生が4月より毎月2回の「朝NIE」を実施した。

担当教員が選んだ記事を以下のようなワークシートに仕立てて配布。生徒は、記事を読み、ワークシートの設問に沿って考えを記入。担任または副担任が、どの程度取り組んでいるかをチェックして返却。ファイルにとじていくように指導した。

取り組み方法は、過去3年間のやり方を踏襲した。



また、5月の「朝NIE」では、事前のHRAで生徒に記事を選ばせて、「朝NIE」の準備をさせる取り組みもしてみた。事前準備の時間は必要であったが、記事を選ばせたことは好評であった。

2. 実践の内容

	年次	内容
朝NIE	1年次生	10月より毎月2回程度、金曜日の朝読書の時間を活用して実施
	2年次生	4月より毎月2回程度、金曜日の朝読書の時間を活用して実施
	3年次生	10月より毎月2回程度、金曜日の朝読書の時間を活用して実施
教科NIE	1年次生	生物基礎において、「切り抜き速報 科学と環境」版の生物関連の記事を各自が選び、5W1Hマップを活用して分析。要約、感想をグループ内で発表する。
探究NIE	1年次生	「切り抜き速報」から各自興味関心のある記事を選び、読み取る(5W1Hマップで内容分析)。要約と感想、提案などをクラス内で発表し、相互評価を行う。代表者による1年次部全体発表会(スピーチコンテスト)を実施する。
その他		・「NIEコーナー」の改良 ・「いっしょに読もう!新聞コンクール」への参加

②「教科NIE」の取り組み

年間計画では、1年次生生物基礎のみであったが、実際は他の多くの授業でもNIEを取り入れており、本校におけるNIE活動の定着がうかがわれた。次表は、そのごく一部である。

時期	年次	教科(科目)	単元等
7～8月	1年次	理科(生物基礎)	生態系
7月	3年次	公民(政治経済)	軍備管理と軍縮

時期	年次	教科 (科目)	単元等
7月	1年次	家庭 (家庭基礎)	生活設計
12月	2年次	数学 (数学Ⅱ)	データの 分析
11月	3年次	国語 (国語表現)	表現の 探究
1月	3年次	英語 (実践英語Ⅰ)	スピーキ ング

③「探究NIE」の取り組み

「探究NIE」は、教科におけるNIE実践で身につけたNIE活動の基礎的スキルを定着させるとともに、記事の分析・比較・活用を通して、社会的課題への興味関心を高めることを目的とした活動である。

対象生徒は1年次生で、「切り抜き速報」から各自興味や関心のある記事を選び、読み取り(5W1Hマップ)、要約と感想、提案などをクラス内で発表し、相互評価を行う。各クラス代表者による全体発表会(12月)を実施した。



全体発表会でのプレゼンテーション

(2) その他

①「NIEコーナー」の改良

生徒が新聞を読みやすい環境整備を行った。



改良前の「NIEコーナー」



改良後の「NIEコーナー」

改良後は、新聞がクシャクシャになっていることが増えた。読んでいる生徒が増加したことがうかがえる。

3. 成果

(1) 生徒アンケート

1学期末に、以下の3つの項目で生徒アンケートを行った。(891名回答)

①(1学期末調査)あなたは、どのくらい新聞を読んでいるか。

4: 毎日～週5日	6.3%
3: 週4日～週3日	6.6%
2: 週2日～週1日	13.7%
1: 全く読まない	73.4%

②(1学期末調査)NIEの取り組みを通して、社会の出来事について興味や関心を持つことができたか。

4: とても思う	14.6%
3: 思う	42.9%
2: あまり思わない	34.4%
1: 思わない	8.2%

③(1学期末調査)NIEの取り組みに意義を感じるか。

4: とても感じる	10.3%
3: 感じる	38.2%
2: あまり感じない	34.9%
1: 全く感じない	16.7%

生徒からのコメントは、「自分で記事を選びたい」「『切り抜き速報』ではなく、最近の記事でNIE活動がしたい」「形骸化したNIE活動になっている」などの厳しい意見が上がってきた。以上のようなアンケート結果

になった理由としては、生徒自身が選んだ記事ではなく、「切り抜き速報」や「教員が選んだ記事」などを教材に選んでいるからと考えた。

新聞を読むことや記事を選ぶことを「楽しい」と生徒に感じさせる工夫が必要であると考へた。そこで、特に「朝NIE」活動で使用する新聞記事は生徒自身に選ばせるよう、関係分掌と相談した。しかし、年度当初から、「朝NIE」で使用する記事や、それに関連した図書の紹介などが細かく計画されている中での実施方法の変更は難しいということで、生徒が新聞記事を選ぶということではできなかった。

再び、2学期末に同じアンケート項目で調査をした。(882名回答)

① (2学期末調査) あなたは、どのくらい新聞を読んでいるか。

4 : 毎日～週5日	9.6%
3 : 週4日～週3日	7.7%
2 : 週2日～週1日	13.7%
1 : 全く読まない	69.0%

② (2学期末調査) NIEの取り組みを通して、社会の出来事について興味や関心を持つことができたか。

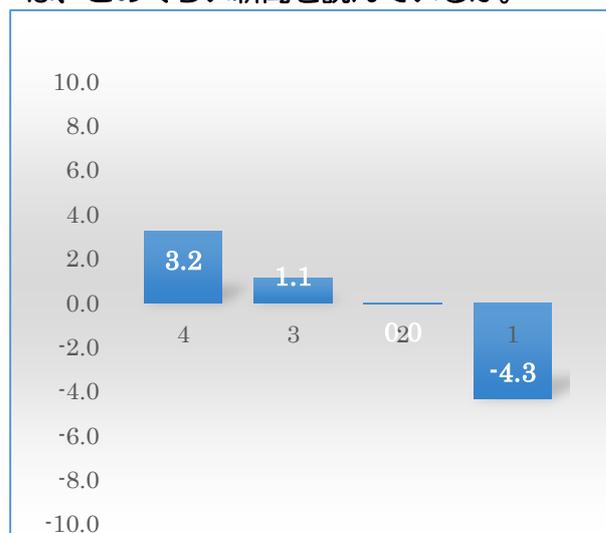
4 : とても思う	21.2%
3 : 思う	41.3%
2 : あまり思わない	27.0%
1 : 思わない	10.6%

③ (2学期末調査) NIEの取り組みに意義を感じるか。

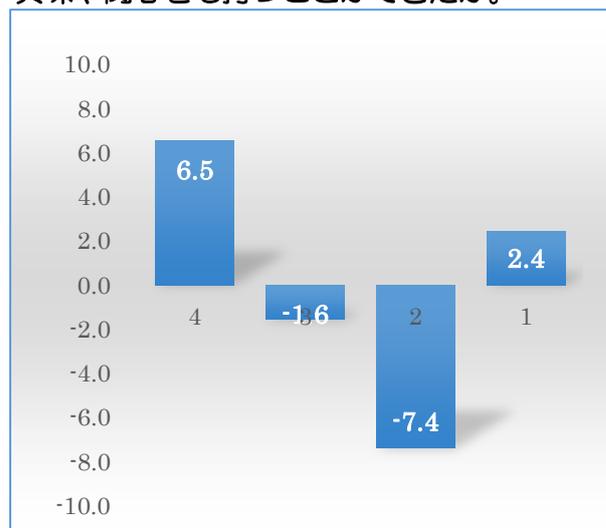
4 : とても感じる	18.6%
3 : 感じる	38.9%
2 : あまり感じない	28.1%
1 : 全く感じない	14.4%

「①あなたは、どのくらい新聞を読んでいるか」については、「4 : 毎日～週5日」、「3 : 週4日～週3日」は微増。「②NIEの取り組みを通して、社会の出来事について興味や関心を持つことができたか」については、「2 : あまり思わない」が減少し「4 : とても思う」が増加している。「③NIEの取組に意義を感じるか」では、「2 : あまり感じない」「1 : 全く感じない」が大きく減少し、「4 : とても感じる」が増加している。

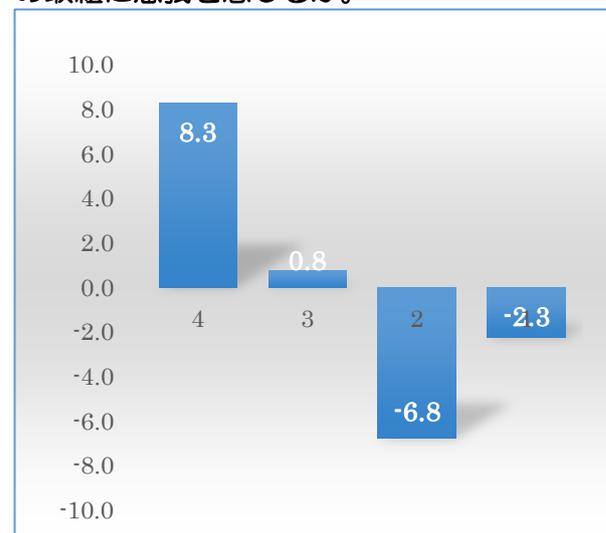
① (2学期末調査) - (1学期末調査) あなたは、どのくらい新聞を読んでいるか。



② (2学期末調査) - (1学期末調査) NIEの取り組みを通して、社会の出来事について興味や関心をもつことができたか。



③ (2学期末調査) - (1学期末調査) NIEの取組に意義を感じるか。



(2) 考察

生徒アンケートから、

- ・生徒は自ら新聞を読むことはしない。
- ・授業や探究学習（総合的な学習の時間）で新聞記事を扱うことによって、社会に関心を持った生徒が増えた。
- ・授業や探究学習（総合的な学習の時間）で新聞記事を扱うことによって、N I Eの取り組みに意義を感じた生徒が増えた。



つまり

教員主導のN I E活動の取り組みは、ある程度効果があったものの、生徒の主体的な活動にはなっていない。

ということが分かる。

4. 成果と課題と今後の展望

前述の通り、本校の学校教育目標「積極的に社会に参加する、責任と良識ある市民性の育成」を達成するためには、「社会への興味・関心」が不可欠である。N I Eの活動を通して、「社会への興味・関心」を養いたいという理由から、開校当初から4年間の取り組みをしてきた。4年目にして実施目的や実施方法が確立し、生徒や教員もそれに慣れ、本校の教育活動の中での位置づけが確固たるものになった。効果も着実に上がってきている。

しかし、3.(2) 考察でも述べた通り、本校のN I E活動は、あくまで教員主導であり、生徒自らによるものになっていない。これは、平成27年に別府青山高校、別府羽室台高校、別府商業高校の3校が統合し、新しく別府翔青高校ができたとき、「特色ある学校づくり」の構想の中で、短期間にある程度の成果を得るために、教員主導にならざるを得なかったことに起因すると考える。

全校の8割以上の生徒が、全く新聞を読まないという現状について、本校職員の意見も分かれている。以下は、その要約である。

(生徒が新聞を読まなくてもよい)

- ・新聞を読まなくても、ネットでヘッドラ

インニュースは見ていると思うので、今のままで良いのではないかと。

- ・新聞からだけでなく、ニュースに接することができる。むしろ、いろいろなメディアから情報を集めたり、精選したりする力を養うことのほうが重要。

(生徒が新聞を読んだ方がよい)

- ・きちんとした文体の文章をたくさん読むことは、すべての教科の学力向上に通じる。
- ・現在のセンター試験、国公立大学の問題は、文章量が多くなっている。高校の低学年から、大量に文章を読んで、内容を把握する力を養うために、新聞を読ませるといのはよい方法である。
- ・ネットでは、自分の興味のあるサイトしか見ないので、考え方が偏ってしまう。
- ・新聞は、さまざまな分野の記事が掲載されており、パラパラめくるだけでも、思わぬ出会いがある。それによって、生徒の世界がどんどん広がっていく。



以上のように、校内の意見は分かれているが、議論のポイントはただ一つ、「生徒のために何が一番良いのか」ということである。

過去4年間のやり方を踏襲するのか、それとも新しい切り口のN I E活動にするのか。開校5年目の十分な議論を急がなければならない。

ことばと向きあう、社会と向き合う

～職業観を育てるNIEの実践～

別府溝部学園高等学校 教諭 田中 祐輔

1. はじめに

本校はNIE実践指定校としての取り組みを始めてから2年目を迎えている。「ことばと向きあう、社会と向き合う～職業観を育てるNIEの実践～」というテーマを昨年度から継続している。次期学習指導要領にも「キャリア教育」が明示されている。社会との関わりを通して自分らしい生き方を形成していくために、新聞を通して効果的に自己の社会での役割を見出していくように活動していきたい。

「社会とつながる意識を持たせること」、「新聞をツールとした対話を通してコミュニケーションを図ること」、「新聞に親しみを持って読むことができるようになること」を置いて活動した。



2. 取り組みの内容

本年度実施している本校の取り組みの内容は、3つの柱にまとめられる。

- ① 普通科での取り組み…総合学習の活動および進学コースでのワークシート活用
- ② 食物科での取り組み…進学・就職の際の時事問題対策
食育月間に合わせて食育に関する記事を読み、書き取り、授業の都度、記事に対する感想を書く
- ③ 看護科での取り組み…看護専攻科2年生の教室にその日の朝の新聞を設置看護の授業で新聞を使った研究授業

[取り組みの詳細]

① 普通科総合学習

総合学習は週に2時間、火曜日と木曜日に配置されている。さまざまなエリアを設定し、生徒は自由に選択をし、学習に取り組んでいる。NIEエリアはその中の一つであり、1年生、2年生の合計で現在22名の生徒が選択をしている。NIEエリアの目標として、

<1学期の取り組み>

1) はがき新聞を使った自己紹介

1年間一緒に活動していくグループとして、相互理解を図るためにはがき新聞を活用した。はがき新聞作りを通して、1年間新聞をツールとした学習をするという印象付けをした。

2) 記事を選んで紙にまとめ、感想を書く

新聞を読むということに慣れていない生徒が多く、この作業に時間をかけることが多くなった。作業をしながら新聞を通して沢山の会話をしてほしいという思いを伝え、自由な雰囲気の中でのびのびと作業を進めた。

3) NIEワークシートの使用

新聞を活用することによって、社会で起きていることに興味を持たせる、自分の考えを抱かせ、社会とつながっている意識

を持たせることを目的として、大分合同新聞のN I Eワークシートに毎回取り組みませた。

4) いっしょに読もう！新聞コンクール

「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募を目指して新聞記事を読み合う作業に挑戦した。コンクールの内容に準じた形のワークシートを作成し、友だち同士で記事を読み、意見を出し合う学習に取り組んだ。時間の都合で完成に至らなかった作品はあったが、いくつかの作品は最後の意見感想まで自分なりに書ききることもできていた。

5) 新聞記事に出てきた地名をワークシートに書き込み、色を塗る作業

学習を進めていく中で、国や地域のことをほとんど知らない生徒がいることに気づいた。

そこで、大分合同新聞社のホームページにある白地図のワークシートを使用して県や地域の名前と場所を把握する練習に取り組んだ。

パズルのような作業なので生徒たちは夢中になって取り組んだ様子だったので、今度は世界地図の白地図をA3用紙6枚分に拡大し、グループで作業をさせた。新聞記事に出てくる世界各国の名前を抜き出し、地図帳で確認し、白地図に記入した。

6) 切り抜き新聞グランプリの練習

切り抜き新聞グランプリの用紙を配り、作業をさせた。普段から取り組んでいる内容に近いものだったので、慣れた手つきで取り組むことができた。

7) 読者投稿の相談コーナーの記事に答えを書く

各社の「相談コーナー」の記事を読み比べ、その相談に答える文章を書くという設定で短い意見文を書かせた。

生徒たちはシビアな意見を持っている人が多く、「世の中にはこんなことで悩んでいる人がいるんだ」と素直な驚きを述べている生徒もいた。意見も割と突き放すよ

うな書き方をしてしまうことがあったが、「今、目の前で本当にそのことで悩んでいる人に対して言う感じで書いてごらん」というと、書き方もいくぶん柔らかくなってきた。

目の前にいる人に言う感じと、文章に書く感じがかけ離れてしまうことはよくあるが、図らずも「生徒たちは普段、こんな風に辛らつな言葉をSNSなどで書いているのだろうか」と考えさせられる授業となった。



< 2学期以降の取り組み >

8) 「夏休みにあったできごと」を新聞記事にするとしたら？

いつ、どこで、だれが…をまとめるワークシートを作成し、実施。記事の作成は実際にはせず、要点をまとめる練習として取り組む。

ワークシートの最後に「その出来事にタイトルを付けるとしたらどんな言葉になりますか？」という質問を用意し、記事の見出し作りの練習にも活用した。

また、絵日記風にその出来事の絵を書かせたことで、記事、見出し、絵という要素を抑えることができた。

ここではまだ実際には新聞作りは行っていないが、この後の新聞作りの基盤にはすることができた。

9) 新聞でフリートークをしよう

グループごとに新聞をテーブルの中心に置いて、そこからテーマを拾い上げて自由に話をする。何について話してもいいが、どんな話をしたか、というメモを細かく書いて提出。

全く新聞と関係のない雑談ばかりの時間になるかと思っていたが、意外とどのグループも新聞を広げながら会話を繰り広げていた。グループを回ると社会の情勢や地域の出来事について教員に質問をしたり、意見を求めたりしてくれた。

10) 「見出しリレー」

新聞の見出しにある言葉だけを使ってしり取りをする。たくさんリレーを作れたグループが優勝、というゲーム感覚の取り組みをした。

生徒たちがこの作業に対して乗り気になってくれて、白熱した対決を展開した。

11) スクラップブックを作ろう

スクラップブック作成用のワークシートをダウンロードし、3～4時間実施。テーマに偏りがなく、広範囲になるように指示。

実際にはスクラップ「ブック」を作るまでには至らなかったが、スクラップシートを数枚作り、それをそれぞれにまとめることができた。

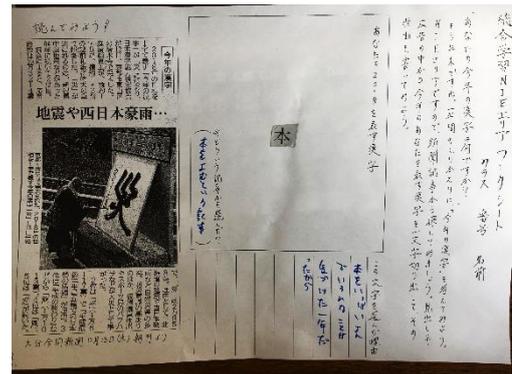


12) 新聞記事をレポートや論文に引用する練習をしよう

記事を選び、ワークシートに貼る。新聞社名、日付、記事の見出しなど、引用に必要な事項を明記し、要約をまとめ、感想を書く。2時間程度実施。

13) 「今年の漢字」を新聞から選ぼう

新聞の中から今年を表す漢字1字を選び出し、ワークシートを完成させる。



14) 年末年始の気になるニュースをまとめよう

年末年始の新聞の中から特に気になった記事を選び、切り貼りしながら自由に話し合う。

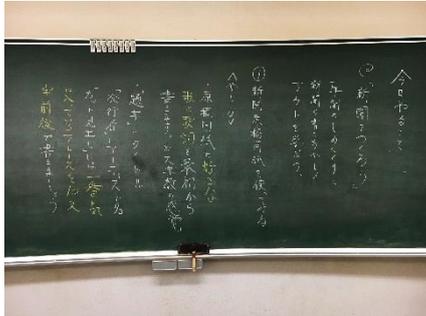


15) 新聞ワークシートより、増減率を求めよう

増加率、減少率の計算方法を学び、ワークシートから実際に数字を出す練習をする。

16) 新聞を作ろう① 原稿用紙を埋める感覚を身につけよう

新聞用紙に好きな歌の歌詞を書かせる。マスがあまり空くことがないように埋めるようにする。480文字の原稿用紙に1曲分がほぼ埋まる。



17) 新聞を作ろう② 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」?

新聞にまとめたい記事を考え、それを5W1Hで整理しながら、記事の基となるネタ作りをする。

② 食物科

昨年度、研究授業で新聞を扱った授業を行った先生が、引き続き新聞を使った授業を積極的に行ってくれている。特に就職と直結する学年であることから、社会の事を学ぶために定期的に新聞記事を読ませるようにしている。

③ 看護科の研究授業

看護衛生に関する授業で、「はしか」の感染について扱った。

授業でははしかの予防接種に関する記事を読み、続いて国家試験に出てくる感染症に関する問題を確認し、どのような部分を知っておく必要があるのだろうかと考察する。

新聞を見慣れない生徒も多かったので、新聞の読み方から確認し、丁寧に進めた。普段は教科書に沿った内容の多い科目であるが、生き生きと、なおかつ看護の専門知識に直結するような学びができていた。

3. 新聞の配置と環境について

NIE実践指定校となった昨年度から、新聞を閲覧するための書架を購入し、職員室前の廊下に配置している。生徒の行き来の多い場所であり、校内においては比較的目につきやすい所ではあるものの、生徒がそこで新聞を開いて見やすいスペースであるとは言いにくい。学校の構造からなかなか最適なスペースが見つからないのが課題である。

図書館が校舎から離れ、高校専属のものではなく学園のものであることから、図書館の全面的なバックアップというのも得られにくい。

そのような中でも、教員が負担をあまり感じずに持続的に環境をつくっていけるようにするためにアイデアを出し合っていきたいと思う。

4. 考察と今後の展開

各学科で新聞を使った取り組みを実施してくれているが、その数はあまり増えてはいない。意識的に取り組んでくれている先生は固定化されている様子である。

私自身も、今年は進学クラスを担当しており「新聞を使って学力向上を図る」という目標があったものの、なかなかスムーズな活用ができなかった。

ただ、普通科としてみれば、総合学習でさまざまな活動ができた。もっと発展的なテーマを扱ってみたいという思いはあったが、生徒の実態と照らし合わせて、少しずつ前進してきたように思う。最後には新聞作りをしよう、という目標があったので、今はそれに向かって取り組み始めているところである。

総合学習は週に2時間あり、毎回新しい取り組みができるか不安はあったが、それほど苦慮せずにここまで計画、実施することができた。

生徒は新聞の読み方をほとんど知らず、最初は興味を持ち、目を通すことから始め、だんだんと慣れてきたことで新聞作りまでたどり着くことができた。

今後NIEの位置付けをどのようにしていくかなど、戦略を再構築する必要があるが、学校としては継続して実践していけるように引き継いでいきたい。

新聞を通して考える 社会と自分

～新聞を進路目標設定に生かす方法を探る・1年目～

大分県立大分舞鶴高等学校 国語科 教諭 小坂 吏香

1. はじめに

本校は、スーパーサイエンスハイスクール(S SH)の指定を受けており、ラグビー部、テニス部をはじめとして部活動も盛んである。進学希望を持ち、意欲的な生徒が集まり、高いレベルでの文武両道を目指す学校である。とはいえ、目の前の教科学習や部活動などに精一杯で、社会で何が起きているのかを知ることも考えることもなく、日々を過ごす生徒が大半である。

大学入試改革による大学入学共通テスト(いわゆる「新テスト」)の一期生となるのが、この高校1年生である。複数のテキスト(文章・図・資料)を組み合わせて解答を導くといった問題への対応、思考力・判断力・表現力のさらなる向上、社会における諸問題の解決を図ろうとする姿勢や、そのための学びに主体的に取り組む意志を明確に伝える力など、これまで以上に求められている。

新聞には社会の諸相が取り上げられ、文章も写真や図もたくさん載っている。そのような新聞を活用した指導の意義として、「①社会に対する知識・課題への認識を深める②社会と自分自身をつなげる(身近な問題としての把握)

③さまざまな人の生き方、価値観を知る④読解力、表現力を育成する⑤進路目標の設定および目標の実現」等々、数多くある。

新テストに備えるためにも、本校が育成したい力としている「社会の変化にたくましく対応できる生きる力」を育むためにも、NIEの実践が効果的ではないかと考え、1年国語科を中心に取り組んだ。

2. 実践の概要

【実践の目標】

- 1 新聞を通して、生徒の社会への関心、読解力、思考力、表現力を養成する。
- 2 生徒が自発的に新聞を調べ、進路目標の設定及び達成に資するものとする。
- 3 学年、複数教科、図書館等の連携の取れた組織体制を構築する。

実践1年目、日常的に新聞に触れるよう、新聞を読む場所・機会を準備することから始めた。

【取り組みの実際】

①NIEコーナーの設置

新聞無料提供期間に職員室入り口前に設けた。併せて、生徒の活動が載った記事の切り抜き(タイトル「舞鶴魂の体現」)や読ませたい記事の掲示も行った。



無償提供期間が昨年9～12月であったため、推薦入試に臨む3年生が新聞を手取る姿が多く見られた。

ただ、新聞提供の期間が終了したため、維持することが困難になってしまった。現在は、「舞鶴魂の体現」の掲示のみになってしまっている。

(「新聞を読める場所」として図書館を紹介)

「舞鶴魂の体現」には、登下校の途中に足を止め、記事に見入る生徒も。



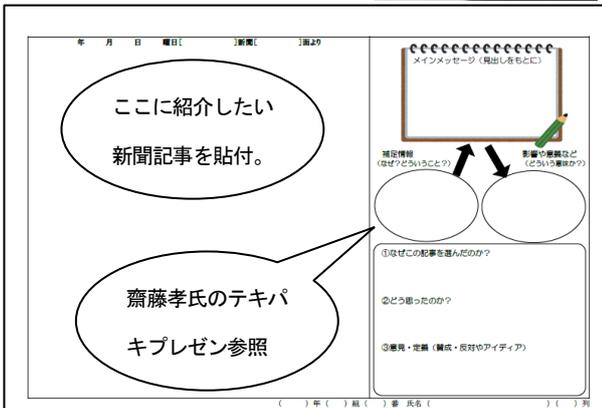
②コラムの読み比べ配布 (毎日/平日)

読むことを主眼とし、5紙(朝日・毎日・読売・西日本・大分合同)のコラムをB4サイズ用の紙に印刷し、9月から配布。1年生以外にも手に取れる場所(NIEコーナー)に設置。



③新聞記事の紹介 (1年生全員・現代文2時間/週)

クラスメートに紹介したい記事を切り抜き、発表する(1分間スピーチ)。切り抜きを貼ったワークシートは教室内に掲示する。



要約する力だけではなく、話す力・聞く力の育成にもつながっている。

④新聞社発行のワークシートの利用

小論文指導の一環として、1年進路指導部の担当者が準備し、毎週水曜日に実施。各クラスの担当が、提出されたシートのチェックと、裏面にクラスメートの意見の集約やテーマに関する資料などをコピーした上で、返却する。



生徒は返却時、必ず裏面をチェックする。その後、「小論文ファイル」として保管する。

⑤いっしょに読もう！新聞コンクールへの応募

→奨励賞1名、大分県NIE推進協議会賞3名

⑥切り抜き新聞グランプリへの応募

→優秀2名、学校賞

1年生全員に対し、⑤は夏季休業中課題、⑥は冬季休業中課題として取り寄せた。簡単な事前説明のみで、実際に練習でやってみるといった時間的な余裕はなかった。出来上がった作品には、生徒個人の取り組みに対する温度差を感じたが、おおむね、短期間でよく取り組んだ。習熟し良い作品作りに期待し、来年度も取り寄せたい。生徒は⑥の参加賞であるクリアファイルを、国語科の宿題入れとして活用している。

⑦ 1年国語科「SSH探究講座」

他校の「総合的な学習の時間」に相当し、普通科の生徒がクラスの枠を超えて、国語・数学・英語・地歴・理科・体育・芸術・家庭科などの10講座から自分の希望する講座を選択して参加する。週1時間、各講座3～6時間で完結。

*

<テーマ> 社会の諸問題に迫ろう

<目的>

○新聞記事から現代社会にはさまざまな問題があることを知り、その中の一つに注目して問題の概要、原因や影響などを多角的に調べ、解決策を考えることにより、問題の背景には「筋道がある」ことに気づく。

○ポスターセッションで分かりやすく伝え合うことで、諸問題に対する理解を深める。

<参加生徒> 1回目 5/1～6/19 25名

2回目 7/10～10/9 25名

<使用場所> 図書館

<指導手順> (全6時間)

時間	学 習 活 動	目 標
1	新聞から見つけよう	学習のめあてを知り、見通しを持つ
	～どんな問題があるのか？記事に書いてあることは何なのか？等々	班分け、課題設定 資料・情報を集める
2	幅広く調べよう	資料・情報を集める
	～それぞれの問題がどうつながるのか？どのようなことに影響を及ぼすのか？等々	課題の再設定 情報を記録・整理する
3	情報を絞り込もう	情報を絞り込む
	～みんなに一番伝えたいことは何なのか？何をどう説明すれば伝わるのか？等々	再調査する ポスターセッションの方法を知る
4	発表に向けた準備をしよう	「事実」と「意見」を区別する
	～分かりやすいポスター・説明原稿を作ろう！	「自分の言葉」で語る
5	問題について理解しよう【発表会】	伝え合い深め合う
6	学習を振り返り考えよう	自己評価・相互評価
		意見文を書いて投稿する

6分野に分け、1班4名程度をくじ引きで決定。時間の制約がある関係上、どうしても昼休みや放課後といった正規の時間外の活動を頼みにするしかなかったが、生徒は活動の意味を考えて学習課題に取り組んでいた。

(各班のキャッチコピー一覧)

1 回目	
医療	Lifestyle Related Diseases
教育	大学入試改革について
科学技術	科学技術がもつメリットデメリット
環境	ゴミによって変化する社会
政治・経済	働き方改革～日本の今を深く広く
グローバル社会	日本と外国の関係について
2 回目	
医療	医学と中絶
教育	標に届かない学力とその原因
科学技術	東ロボくんから見るAIの進化
環境	地球はどう生きるか
政治・経済	18歳になる私たちへ
グローバル社会	争い 世界平和を考える

調べ学習の際、図書館司書が作ってくれている「テーマ別新聞記事ファイル」が大いに役立った。新聞記事が、インターネットにあふれている情報よりも信頼性が高いことや、多岐にわたる情報が書籍よりもコンパクトにまとまっていることなどを実感し、調べ学習や思考を深めたり広げたりすることに、非常に役立つツールであると感じていた。

<生徒感想>

自分の班で調べてまとめるのは、とても上手にできていたと思います。新聞から「今の自分」や「これからの未来」について、自分たちで考えていくことはとてもおもしろく、貴重な体験になりました。他の班の発表を聞き、意見交換をすることで、新たな考えを見つかることができました。2つの班の発表しか聞けなかったため、すべての班の発表を聞いてみたいと思いました。

今回のSSH探究では、希望していた国語で、国際問題を取り扱えることになったため、意欲的に学ぶことができました。新聞はネットなどと違い、一つのテーマからさまざまな情報が入ってきて、自分の班も他の班もとてもおもしろい発表ができたと思います。最近忙しいと言いつつ新聞から離れていたため、また、読み始めようと思いました。

班員のみんなと、クラスこそ違おうが、深く話し合いをすることができて、その結果、調べた内容を伝えることができたのでよかったのではないかと思います。今後も自分の身の回りのことに目を向け、好奇心を持って積極的に知識を高めていきたいと思っています。そして、正しい情報を見分けられる大人になりたいと思います。

今回、調べ学習をしてみて、今の日本が抱えている諸問題を取り上げたことにより、その分野について新たな知識を得ることができた。私たちが取り上げた「学力低下」では、近年どんどん学力が低下しているものとばかり、最初は思っていたけど、調べてみると大分県の学力は上昇傾向にあり、足りない点は読解力などだったので、驚いた。これからは気になった問題は自分から進んで調べてみて、理解を深めたいと思う。

3. 成果と課題

2月に入り、1年生に対して新聞に関するアンケートを実施した。(回答数)

新聞に関するアンケート				割合
問 1	自宅で新聞を購読していますか。	1	はい	67%
		2	いいえ	33%
問 2	日頃、新聞を読んでいますか。	1	ほぼ毎日	5%
		2	ときどき	43%
		3	読んでいない	52%
問 3	高校生になり新聞に触れる機会は増えましたか。	1	増えた	35%
		2	変わらない	46%
		3	減った	19%

新聞を読んでいない生徒が半数を超え、高校生になって「忙しくなったから・時間がなくなったから」新聞に触れる機会が減った中で、辛うじて、国語科や家庭科の授業で、新聞に触れる・活用する機会を得ている状態が見て取れた。

問 4	新聞を読むとどのようなことができますか。(複数回答可)	1	時事問題を知る	94%
		2	語彙力が身につく	64%
		3	文章を読むのが早くなる	57%
		4	文章を分かりやすく書く	16%
		5	情報を選択する	32%
		6	情報を活用する	37%
		7	より深く思考する	32%
		8	自他の違いが分かる	16%
		9	視野が広がる	71%
		10	その他	0%

問 5	新聞を活用した授業で多少なりになったと思えることは、何ですか。(複数回答可)	1	時事問題を知る	72%
		2	語彙力が身につく	37%
		3	文章を読むのが早くなる	23%
		4	文章を分かりやすく書く	18%
		5	情報を選択する	40%
		6	情報を活用する	41%
		7	より深く思考する	35%
		8	自他の違いが分かる	20%
		9	視野が広がる	46%
		10	その他	0%
	なし	2%		

【成果】

実践目標3について、図書館との連携や学年内での役割分担ができた。また、本年度、他教科や他学年の教員(クラス担任)から、「新聞記事を活用してみたい。どのような取り組みがあるのか。それを始めるためにはどうしたらいいか」といった問い合わせがあった。新聞記事紹介の方法や新聞社発行のワークシートの利用、切り抜きノートの作成などの説明をしたところ、実際にやってみているという報告が徐々にではあるが、届いている。

実践目標1について、左の表(問3)の通り、新聞を読むことの効用を知りつつも、自主的・積極的に読むことはできていない。しかし、この1年間の取り組みを通して、「多少なりともできるようになったと思えること」があると、実感できている生徒がいる(問6)。学年及び教科の教員の協力のもと、生徒には「新聞記事を定期的に読んで考える。考えたことを他者に伝える」という意識づけもできつつある。模試の成績という客観的な数値に現れてきているとはいえず、非常に主観的で頼りなく曖昧なものかも知れないが、これからも粘り強く、小さな一歩を積み重ねていきたい。

【課題】

- ①実践目標2に関する生徒個々人の意識差が、まだまだ大きい。
- ②生徒に考えさせたり相互評価させたりして、「深めるための時間」の確保。
- ③新聞を活用した教材・授業案の開発。



■ 地道な活動続ける「実践研究会」～初めて中津市でも開催

教員の自主研究組織「大分県N I E実践研究会」は2018年度も地道な活動を続けました。8月には2回目となる大分、熊本、宮崎3県の「N I E合同合宿研修」を実施。11月には「第3回N I E子ども会議」を、19年2月には初めて中津市で研究会を開催しました。

8月18日に宮崎市であった合宿研修には研究会代表の佐藤由美子・大分市立鶴崎小学校長ら教員4人が参加。佐藤校長が児童の関心を地域に向けさせるための地方紙ローカル面の活用、津久見市立第一中学校の永松芳恵教頭が、津久見の魅力について調べた学習のまとめとして新聞作りを取り入れた事例を発表。宮崎県が大分の「子ども会議」に倣って始めた「N I E子どもサミット」も見学しました。



N I Eの意義や楽しさについて話し合った子ども会議

本年度の子ども会議は11月10日、大分市で開きました。県内の小中学生5人が登壇し、大分市立明治北小学校の平山立哉主幹教諭の司会で▽心に残るN I Eの活動や授業▽N I Eを通じて身に付いた力や役に立ったこと▽今後新聞とどう付き合い、人生に生かすか—の三つのテーマを柱に意見交換。児童生徒からは、N I Eを体験したことで「自分の考えをまとめる力、発表する力がついた」などの意見が出ました。



中津での実践研究会。参加者と交流する鈴木教授（右）

2月9日の第76回研究会は中津市の小幡記念図書館で開催。初めて大分市以外での開催が実現しました。43人が参加。愛知教育大学の鈴木健二教授が「新聞と授業づくり」のテーマで講演。教員や司書、中高生による座談会「新聞と私」、地元教員からの実践報告もあり、充実した会となりました。

■ 山口小で大分県N I Eセミナー

授業や教育活動での新聞活用について学ぶ、大分県N I Eセミナーを、本年度は10月16日に中津市の山口小学校で開催。公開授業や研究討議を通じて新聞活用事例を共有し、活用の意義や効果について学びました。



N I Eセミナーでの公開授業

公開授業は三つの学年で実施。教育効果を高めるために新聞、ニュースをどう役立てていくか、担当教員が工夫を凝らした授業を展開しました。3年生の国語では、資料の読み取りやまとめ、発表の方法を学ぶ教材として「小学生が将来就きたい職業」のランキング表を活用。

4年生の道徳では命の尊さを伝える教材として新聞記事を活用。6年生の国語では、「75歳以上の高齢者の運転免許返納」について、新聞などから集めた知識、情報と自らの考え、意見を関係付け、根拠を持った主張で討論する「ディベート」を行いました。

■ N I E実践報告会で意見交流

N I E実践指定校が本年度の活動について報告するN I E実践報告会が2月21日に大分市で開かれました。指定校として新聞活用に取り組む各校が具体的な実践事例や成果を発表しました。

このうち大分市立鶴崎小学校は文字探しやスクラップなど学年に応じた活動をする「朝のN I Eタイム」を紹介。大分舞鶴高校は新聞社発行のワークシートを使い、裏面に関連資料を掲載して返却する取り組みなどを説明しました。

各校の教員からは「人事異動で教員が入れ替わっても活



本年度の取り組みを発表する教員（N I E実践報告会）

動ができるよう、N I Eの進め方を引き継ぐことが大切」などの意見が出ました。出席したN I Eアドバイザーは「本物の新聞にこだわり、教材化の努力や工夫をしてほしい」などと助言しました。

大分県N I E推進協議会 会則

- 第1条（名称） 本会は、大分県N I E推進協議会と称する。
- 第2条（目的） 本会は教育界と新聞界が協力し、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して教育内容を豊かにするとともに、情報化社会における情報活用能力を高めて、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。
- 第3条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
○N I E実践指定校・実践者を選定し、日本新聞協会に推薦
○N I E実践指定校・実践者の支援、助成
○N I Eに関する研究会の開催、実践報告書の作成
○N I Eに関する普及、啓発活動
○その他、本会の目的達成上必要と認めた事項
- 第4条（会員） 本会は本会の目的に賛同する次に掲げる者で構成する。
○大分県教育委員会、大分市教育委員会、大分県立学校長協会、大分県中学校長会、大分県小学校長会、大分県私立中学高等学校協会の各代表
○N I E実践指定校の代表
○大分県報道責任者会加盟の新聞・通信8社（朝日、大分合同、共同通信、時事通信、西日本、日経、毎日、読売）の各代表
○その他、本会で必要と認める団体・個人
- 第5条（顧問） 本会に顧問を置くことができる。顧問は本会の目的達成のため助言をする。
- 第6条（役員） 本会は次の役員を置き、総会において会員の中から互選する。
○会長 1人
○副会長 若干名
○委員 若干名
○監査 2人

役員の仕事は次の通りとする。

○会長は本会を代表し、会務を総括する

○副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときは職務を代行する

○委員は会務を処理する

○監査は会計を監査する

役員の仕事は1年とし、再任を妨げない。

第7条（総会）

本会は年1回定期総会を開く。

○総会は会長が招集し議長となり、事業計画、運営に関することを決定する

○その他会長または会員の多数が必要と認めた時に、臨時総会を開くことができる

第8条（委員会）

委員は必要に応じ委員会を開く。委員会は事業計画の遂行に必要な事項を協議、決定する。

第9条（経費）

本会の運営に関する経費は、加盟する新聞・通信社の会費および個人・団体からの補助金、その他の収入を充てる。会費は新聞社が年額8万円、通信社が4万円とする。

第10条（事務局）

本会の事務局を大分合同新聞社内に置く。

第11条（実践研究会）

NIE推進のためのワーキンググループとして小中学校、高校、特別支援学校の教員等による大分県NIE実践研究会を置く。

第12条（事業年度）

本会の事業年度は毎年4月1日から、翌年3月31日までとする。

第13条（補則）

この会則に定めるもののほか、本会に必要な事項は別に定める。

付則

本会則は2010年6月4日から実施する。

改定

2013年6月11日

2015年6月22日

2018年度大分県N I E推進協議会役員等

＜顧問＞	工藤 利明	大分県教育長
	三浦 享二	大分市教育長
＜会長＞	堀 泰樹	大分大学教育学部教授
＜副会長＞	丸馬 寿	大分県立杵築高等学校長(大分県立学校長協会代表)
	藤澤 淳一	大分市立明野中学校長(大分県中学校長会長)
	堤 郁夫	大分市立下郡小学校長(大分県小学校長会長)
	小山 康直	大分中学校・大分高等学校長(大分県私立中学高等学校協会会長)
	佐々木和典	大分市立寒田小学校長(実践指定校代表)
	小田圭之介	大分合同新聞社執行役員編集局長(新聞・通信社代表)
＜委員＞	檜崎 信浩	大分県教育庁高校教育課長
	米持 武彦	大分県教育庁義務教育課長
	佐藤 浩介	大分市教育委員会教育部次長兼学校教育課長
	早田 利信	毎日新聞社大分支局長
	長田 泰弘	読売新聞社大分支局長
	石神 和美	朝日新聞社大分総局長
	山本 浩司	共同通信社大分支局長
	西村 修	時事通信社大分支局長
	堀田 正彦	西日本新聞社大分総局長(監査)
	奈良部光則	日本経済新聞社大分支局長(監査)

＜N I Eアドバイザー＞

佐藤由美子	大分市立鶴崎小学校長
塩川 美紀	日田市立若宮小学校教諭
平山 立哉	大分市立明治北小学校主幹教諭
安東 浩子	豊後高田市立田染中学校教頭
永松 芳恵	津久見市立第一中学校教頭
茨木 里香	大分県立鶴崎工業高等学校教諭
小坂 吏香	大分県立大分舞鶴高等学校教諭
田邊 玲子	大分県教育センター教科研修部指導主事
佐田 香織	大分県教育庁義務教育課指導主事

＜事務局＞	事務局長	白倉 純	大分合同新聞社地域コミュニケーション局地域連携室長
	同次長	井上 明	〃 地域連携室シニアマネージャー
	同次長	首藤 誠一	〃 編集局報道部編集委員
	事務局員	嶋田彰一郎	〃 地域連携室顧問
	〃	浅野 総一	〃 地域連携室
	〃	田口 麻加	〃 地域連携室
	〃	河野 幸	〃 地域連携室

<発行>2019年4月

大分県NIE推進協議会事務局

〒870-8605 大分市府内町3-9-15(大分合同新聞社地域連携室内)

☎097-538-9729 **☎**097-538-9810 **✉**nie@oita-press.co.jp